

VRを使用した応急処置シミュレーター開発プロジェクト企画書

概要

応急処置を適切に行うこと、また、AEDを適切に使用することができるように、VRを通して自分視点で一通りの流れを体験できるシミュレーター。

目的

あまり経験をすることがない応急処置をVRで経験することで、人工呼吸や胸骨圧迫の仕方、AEDの使い方の知識を蓄え、日本人の応急処置に対する意識向上と日本の傷病者救命率の向上を目指す。

目標

応急処置の仕方を全く知らない・できないという状態から、シミュレーターの利用による知識の蓄積と応急処置への関心を持ってもらうこと。

具体的な内容

・傷病者の救命率は日本が約3～7%に対してアメリカは約20%
・日本のAED設置数は世界一だが、AEDを使える人は3人に1人しかいない
この二点の事実から日本人の救命救急への意識の低さがわかる。救命率の向上を目指すため、日本の将来を担う小学生から高校生を対象としたシミュレーターを開発する。

コンテンツの流れ

スタート画面→ゲーム画面→評価画面
・意識確認→胸骨圧迫→人工呼吸→AED操作

開発環境

・ソフトウェア
unity
Blender
Cubase
・機材
VR「Oculus Rift」
Leap Motion

メンバー

プロジェクトマネージャー
三木 優輝
プログラマー
山本 玲央 齊藤 潤
デザイナー
小泉 真人 小駒 佑輝 土田 真丸